

V O L U M E

11

DK VOICE Vol.11

第44期 株主通信

2016年4月1日 —→ 2017年3月31日

DK ダイコク電機株式会社

証券コード 6430

目次

新社長インタビュー

Top interview
遊技機業界の新たな転換を支える企業として、変化にスピーディーに対応していきます。

連結決算ハイライト

業界動向

事業概要・セグメント情報

トピックス

会社及び株式の状況

株主優待制度のご案内

裏表紙

10

09

07

06

05

01

遊技機業界の新たな転換を支える企業として、 変化にスピーディーに対応していきます。



代表取締役社長
根本 弘

**Q 社長就任および新経営体制の
発足にあたり、今の想いを
お聞かせください。**

**A かつてない環境変化を乗り越えるべく「積極的
かつ果敢に」をポリシーとして経営に邁進してま
いります。**

このたび2017年4月1日付で代表取締役社長に就任いたしました根本弘です。当社事業のさらなる発展と企業価値の拡大に向けて尽力してまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

遊技機業界では今、特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律案（IR推進法案）の成立を背景に、「パチンコ店における依存（のめり込み）問題」への対策強化を図る行政の動きが具体化しはじめており、これから大きな転換を迎えようとしています。当社にとってもこの1、2年は重要な年となってくると思われます。

私は経営の舵取りを行う立場として、これまでパチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売を行う情報システム事業を中心とする現場で育ち、業界に深く関わってきた経験を活かして、スピーディーかつ的確な判断を行い、それを社員に伝えて会社を動かしていくことが自らのミッションであると考えています。

その実践として安定経営を目指し、収益性と生産性を高めながら、業界ナンバーワン・オンリーワン企業とし

ての製品づくりを通して、社会が求める遊技機の健全性確立に寄与していく。それがこれからの当社のあるべき姿と考えています。行政としては、パチンコ業界への働きかけにおいて大衆娯楽のあり方をここで明確にしておきたいという意向があり、パチンコホールにおけるファンの利用状況を把握し、状況に応じた対応策の構築を求めていますので、このような課題に对应していくことが、当社の重要な役割となっていくと思われま

す。今回の新経営体制は、2017年6月28日開催の定時株主総会並びに取締役会でご承認をいただき、常務取締役を1名増員の2名とし、3名の取締役を新たに選任する役員数の拡充を実施しました。当社事業の根幹を成す情報システム事業部、制御システム事業部、生産部門、管理部門、経営企画部門にそれぞれ担当取締役を配置し、その上位に2名の常務取締役を置くことで、責任と権限を持った風通しの良い組織運営を実現し、状況変化にスピーディーに対応していきます。

もう一つ、今後の経営方針として重視していくのが、人材育成への取り組みです。会社の成長という目的に向けて、マネジメント層と部下の意思疎通を図り、ビジョンを共有するという基本に立ち返りながら、組織の活性化を含めた教育体制の強化を進めていきます。

以上述べてまいりました考えのもと、「積極的かつ果敢に」をポリシーとして経営に邁進することをお約束し、私の社長就任の抱負とさせていただきます。

現在の事業環境と 当期(2017年3月期)の 営業状況をご説明願います。

A 好調な新製品販売とサービス売上に支えられ収益 構造シフトも順調に推移し、減収ながら黒字回復 を果たしました。

当業界では近年、遊技人口(ファン人口)の減少による厳しい事業環境が続いており、新たなファンをどのように獲得し、再興につなげていくかということが大きな課題となっています。その中で、遊技機の射幸性に関する問題提起もなされてきたのですが、未だ対応途上にあるところに、今回のIR推進法案成立を機とする「のめり込み問題」への対策強化を行政より求められている、というのが現在の状況です。

そして当期は、2016年12月末を期限とする「検定機と性能が異なる可能性のあるぱちんこ遊技機」の回収・撤去が行われた影響により、パチンコホールの新規出

店・改装が大幅に減少し、既存店舗の周辺設備への投資に対する慎重姿勢も強まるなど、一層厳しい事業環境となりました。

当社では、情報システム事業において新型情報公開機器「REVOLA」を2016年5月に正式リリースし、制御システム事業においては、連結子会社DAXEL株式会社の開発によるパチスロ遊技機「探偵歌劇 ミルキィホームズ TD」を同4月に、「パチスロ ウィッチクラフトワークス」を同11月にそれぞれリリースしました。

しかしながら、情報システム事業では前述の通り、パチンコホールの新規出店・改装が減少したことでホールコンピュータの需要が伸び悩み、既存店における周辺機器入替への投資意欲も減退したため、売上高が減少しました。また、制御システム事業ではパチンコ遊技機メーカーの販売計画見直しを受け、パチンコ表示ユニット5機種の販売が翌期以降にずれ込んだことから、期初の売上計画を下回りました。

一方で利益面は、情報公開機器などを中心に利益率が

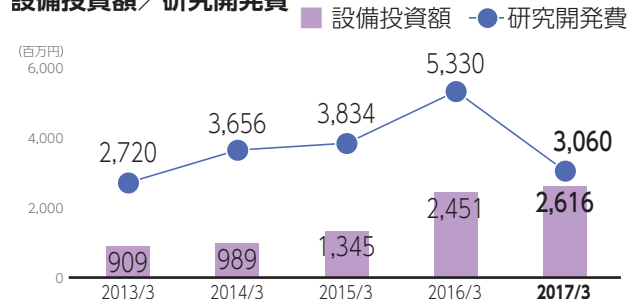
高い製品・サービスが比較的好調に推移し、またCRユニットの導入拡大によるシステム使用料の増加など、ランニング収益を主とする収益構造に変化しつつあることが改善につながりました。さらに、研究開発費の一部が翌期にずれ込んだことに加え、全社を挙げて取組んだ経費削減による効果も現れ、販売管理費の減少をもたらしました。また、当期は子会社が携わるゲームソフト販売事業においてコンテンツの固定資産を減損処理し、2億27百万円を特別損失に計上しました。

以上の結果、当期の連結業績は、売上高407億14百万円(前期比13.4%減)、営業利益10億48百万円(前期は8億94百万円の損失)、経常利益13億74百万円(前期は7億49百万円の損失)、親会社株主に帰属する当期純利益5億2百万円(前期は16億76百万円の損失)と、減収ながら黒字回復を果たしました。

2017年3月期連結業績実績

売上高	40,714 百万円	(前期比13.4%減)
営業利益	1,048 百万円	(前期△894百万円)
経常利益	1,374 百万円	(前期△749百万円)
親会社株主に帰属する 当期純利益	502 百万円	(前期△1,676百万円)

設備投資額／研究開発費



Q 今期(2018年3月期)の見通しと今後の展望についてお聞かせください。

A 「SHINKA」をキーワードに、業界が新たなステージに向かうための製品・サービスを積極提案していきます。

今期の事業環境については、IR推進法案の動きに伴う「のめり込み問題」の対策強化が行政サイドの意向を踏まえてどのように進展していくか、先行き不透明な状況にあります。当社はそうした状況のもと、変化にスピーディーに対応していく態勢を保持しつつ、売上高の大きな伸びが見込めない中で、収益性の向上を図り、利益をしっかりと確保できる基盤を築き上げていく考えです。

その一方で、業界が新たなステージに向かうための提案を積極的に行うべく、この1年間のキーワードを「SHINKA」と定め、展示会等を通じて製品・サービスの訴求を強化していきます。

2018年3月期連結業績予想

売上高	39,000 百万円(前期比 4.2%減)
営業利益	1,300 百万円(前期比 24.0%増)
経常利益	1,300 百万円(前期比 5.4%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	800 百万円(前期比 59.1%増)

情報システム事業では、市場評価の高い「REVOLA」を中心に情報公開機器の販売を継続的に強化し、ファンの評価を分析する「Fan-SIS」などの新たなMIRAIGATEサービスを機軸に新CRユニット「VEGASIAⅢ」を市場投入していきます。制御システム事業では、機種開発案件の獲得に全力を挙げるとともに、市場環境の変化に対応すべく、短期間での市場投入が可能な遊技機提案に注力する方針です。また子会社DAXELが製造するパチスロ遊技機は、上期に2機種を発売する予定です。

以上を前提に、今期の連結業績は、売上高390億円(当期比4.2%減)、営業利益13億円(同24.0%増)、経常利益13億円(同5.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益8億円(同59.1%増)を見込んでいます。

なお当社は、2020年3月期を最終年度とする4ヵ年中期経営計画「Next50 第一章」を当期から始動しました。本計画は、最終年度の連結業績における「売上高570億円」「営業利益40億円」「ROE7%以上」の達成を目標に掲げていますが、IR推進法案の成立以前に策定した内容で

中期経営計画 Next50 (第一章)

2020年3月期連結目標 (2016年5月13日開示)

売上高	57,000 百万円
営業利益	4,000 百万円
ROE	7% 以上

あるため、今後の「のめり込み問題」の対策強化に向けた業界動向によって、目標と実態が乖離していく可能性があります。これについては、今期以降の状況を踏まえ、対応を検討していきます。

Q 将来に向けた新たな動きについてご説明願います。

A 次世代の収益部門を模索・検討し、事業化する「事業開発室」を新設。社内の活性化につなげていきます。

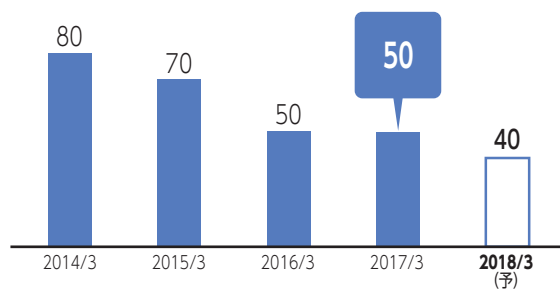
情報システム事業では、この3年間で従来のホールコンピュータシステムに代わる次世代システムの開発を推進し、ビッグデータ対応による高度な分析サービスの実現に向けて、最新技術を導入したインフラ構築に取り組んできました。その開発業務は、大枠において峠を越えていますが、3年前の開発スタート時点から業界を取り巻く環境が変化し、特に「のめり込み問題」への対応は、次世代システムの機能に関わる大きな要素となっています。

次世代システムの市場投入については、完結したプロダクトとして一括的に行うのではなく、「のめり込み問題」への対策が具体化していく中で、CRユニットなど周辺機器の機能を拡充することで対応し、そこから漸次的に移行していく形で次世代システムの導入が進んでい

くと想定しています。この動きが具体化した際に的確に対応できるよう、引き続き開発体制を維持していきます。

将来を見据えたもう一つの動きとして、当社は2017年4月1日付で「事業開発室」を新設しました。これは次世代の収益部門を模索・検討し、ゼロから事業化していくための部署です。その設置目的は、将来の成長に向けた種蒔きを行うとともに、社員の士気高揚を図ることにあります。業界の先行きに不透明感がある中で、社員が感じている将来への不安に対し、視野を拡げて新たな事業の柱への可能性を求め、社内の活性化につなげていく試みです。事業開発室が手掛けていくビジネスについては、「遊技機業界」「エンターテインメント」といった枠を設けず、幅広い分野を対象にしていきたいと考えています。

1株当たり配当金 (円)



株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

A 当期は概ね期初予想に沿った黒字回復を果たしたことから、1株当たり40円の期末配当を実施しました。

株主の皆さまへの利益還元については、業績及び財務の状況を踏まえ、環境変化への対応や成長投資のための内部留保とのバランスを勘案し、安定配当を行うことを基本方針としています。

当期の期末配当は、概ね期初予想に沿った黒字回復を果たしたことから、予定通り1株当たり40円(前期同額)とさせていただきます。これにより年間配当金は、同10円の間中間配当金を含めて同50円(前期同額)となりました。今期の配当は、当社グループが携わるパチンコ業界の先行き不透明な状況が継続していることを考慮し、年間同40円(中間10円・期末30円)、配当性向73.9%を予定しています。

今後は新経営体制のもと、さらなる利益還元の充実に向け、業績の拡大と収益性の向上に努めるとともに、企業価値をより高めていくことで、株主の皆さまのご期待に応えてまいります。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



プロフィール

根本 弘(ねもと ひろし)

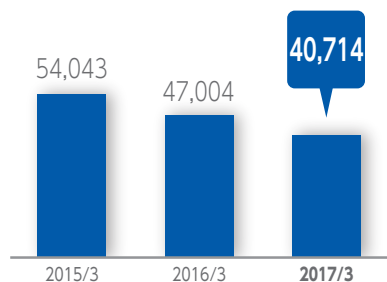
生年月日 1959年1月13日
出身地 宮城県

略歴

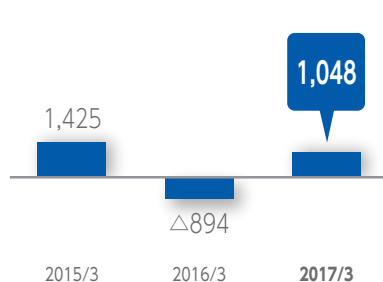
1983年 10月 当社入社
2005年 6月 取締役 事業本部 情報システム事業セクタ 副セクタ長
2006年 3月 取締役 事業本部 情報システム事業セクタ セクタ長
2010年 4月 取締役 情報システム事業セクタ セクタ長
2011年 10月 取締役 情報システム事業部 事業部長
2014年 4月 常務取締役 情報システム事業部 事業部長
2016年 4月 常務取締役 ダイコク電機グループ営業担当
2016年 5月 DAXEL(株) 取締役(現任)
2017年 4月 当社代表取締役社長(現任)

(単位：百万円、単位未満は切捨て)

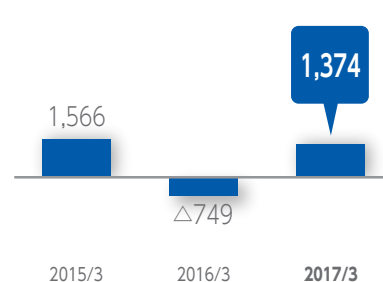
■ 売上高



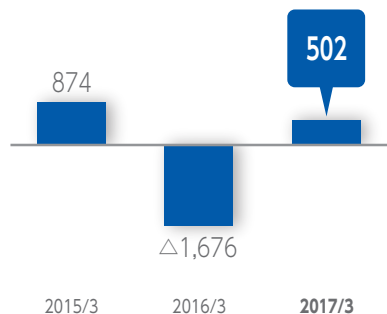
■ 営業利益



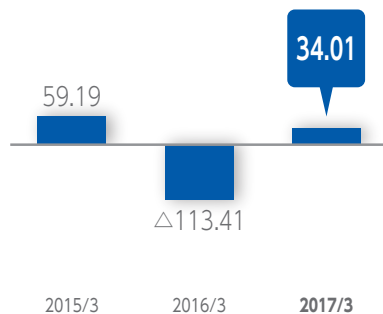
■ 経常利益



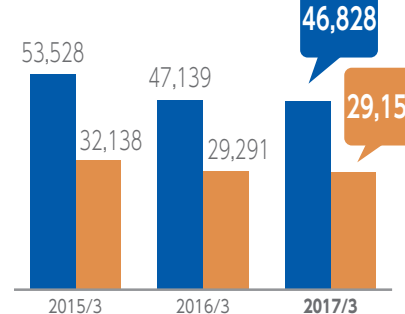
■ 親会社株主に帰属する当期純利益



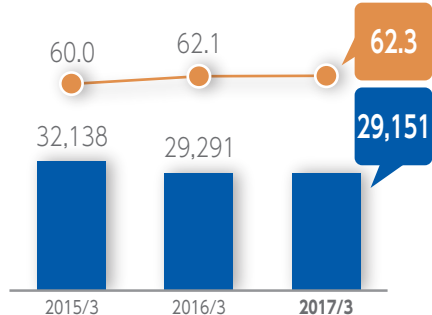
■ 1株当たり当期純利益 (円)



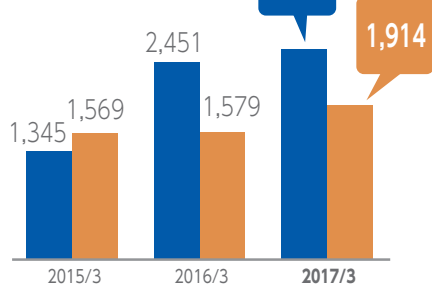
■ 総資産 ■ 純資産



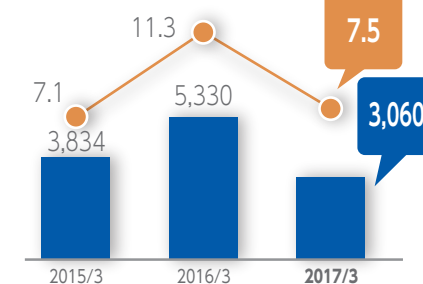
■ 自己資本 ● 自己資本比率 (%)



■ 設備投資額 ■ 減価償却費



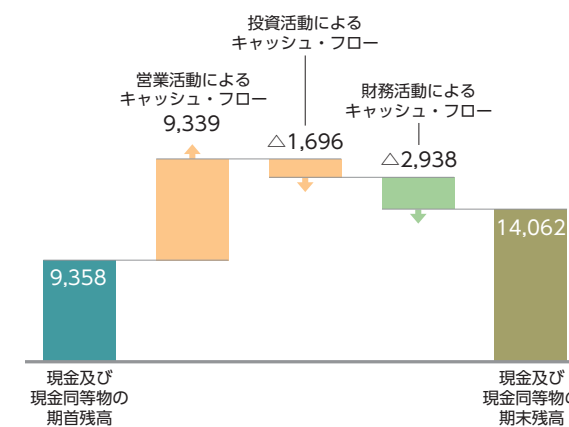
■ 研究開発費 ● 対売上高 R&D 比率 (%)



2017年3月期 資産の状況

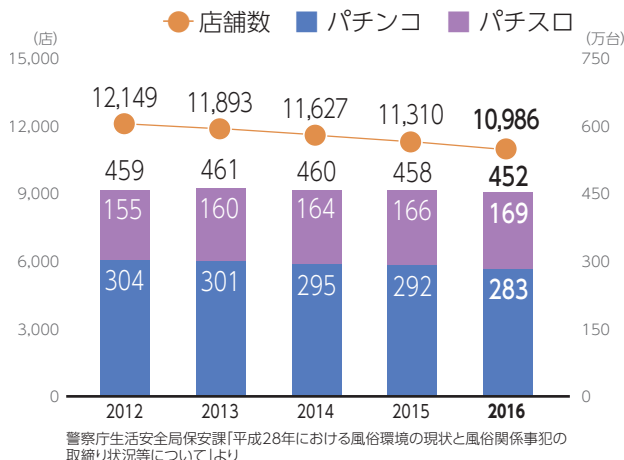


2017年3月期 キャッシュ・フローの状況





■ パチンコ店舗数と遊技機設置台数の推移

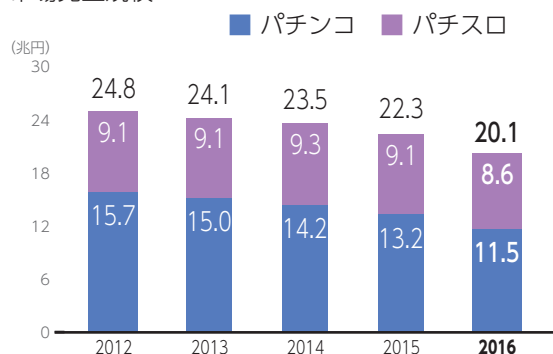


2016年の店舗数は10,986店舗となりました。緩やかな減少傾向が長期間続いており、遂に11,000店舗を割り込みました。

2013年から遊技機設置台数は減少傾向が続いており、2016年はその減少幅が若干大きくなっています。パチンコ遊技機・パチスロ遊技機別では、パチンコ遊技機の設置台数が減少を続けている一方で、パチスロ遊技機の設置台数は増加が続いています。

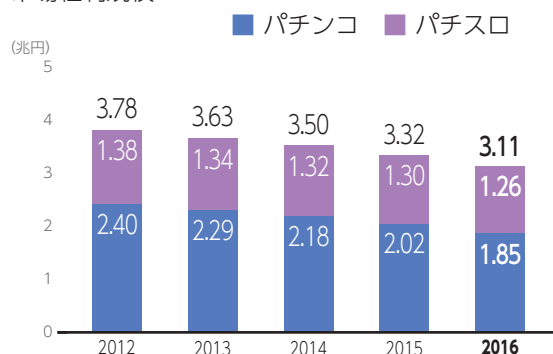
■ 「DK-SIS」が推測する売上規模・粗利規模（「DK-SIS白書 2016」より）

市場売上規模



DK-SISデータから推測するパチンコ・パチスロの市場規模は、売上規模で約20.1兆円、粗利規模は約3.11兆円となりました。DK-SISで業界の状況を表す最も重要な指標と考えている粗利規模は年5%程度の上昇が続いており、市場を取巻く環境は年々厳しくなっているといえます。

市場粗利規模



パチンコ・パチスロ別で見ると、どちらも下落傾向が続いていることに変わりはありませんが、パチンコが年々大きく下落している一方で、パチスロはパチンコと比べて下落幅が小さくなっています。

■ 今後の業界動向推測

業界全体の市場規模は、緩やかながら下落傾向が続いています。パチンコ・パチスロ別で見るとパチンコは「検定機と性能が異なる可能性のあるぱちんこ遊技機」の回収・撤去問題は一区切りがついたものの、長期にわたって続いている低迷状態から抜け出す目処が立たない状況です。パチスロも市場規模を見る限りではなんとか小幅な下落で踏み留まっているものの、2015年以降に登場している「新基準機」の業績が伸び悩んでいる上に、一段と出玉性能が抑えられる「5.9号機」への移行や、現在業績を牽引している「新基準機に該当しない遊技機」をさらに減らす必要に迫られており、現状の業績を維持することは難しいと想定されます。

また、国会においてIR推進法案が2016年12月に可決・成立したことで、いわゆる「のめり込み問題」への対処が急務となっていること、さらにはこのような状況を踏まえて遊技機規則の改正の足音も近づいており、出玉性能の抑制の流れは今後も続くのではないかと考えられます。

ただ、このような状況においても、新規・改装による成功事例が少なくないことや、過去の推移・事例から不況下でも当業界が比較的底堅く推移していることを踏まえると、長期的に業績が落ち続けている中ではありますが、様々な問題が一段落することで底を打ち、業界総粗利は減少傾向から横這い、そして微増へと推移することも期待できないわけではありません。

しかしながら、今後登場する機種は出玉性能に制限が加わるため、パチンコホールでは従来のような出玉性能に頼った営業を続けることは難しくなります。今後はこのような手法のみに頼る営業から脱却し、限られた枠内でいかに業績を上げる進化を遂げられるかが問われるのではないのでしょうか。

ファンを最優先で考えつつ、この淘汰の波に飲み込まれないためにはどのようなことができるのか、当社の「DK-SIS」はこのために努力を惜しまず提案を続けていきますので、今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。

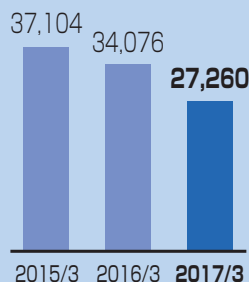
パチンコホールと遊技機メーカーの双方へ革新的な製品

情報システム事業

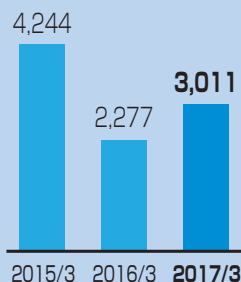
パチンコホール向けに、店舗運営に必要な管理機器「ホールコンピュータ」をはじめとする情報システム機器を提供するなど、企業経営・店舗運営を支援しています。



売上高



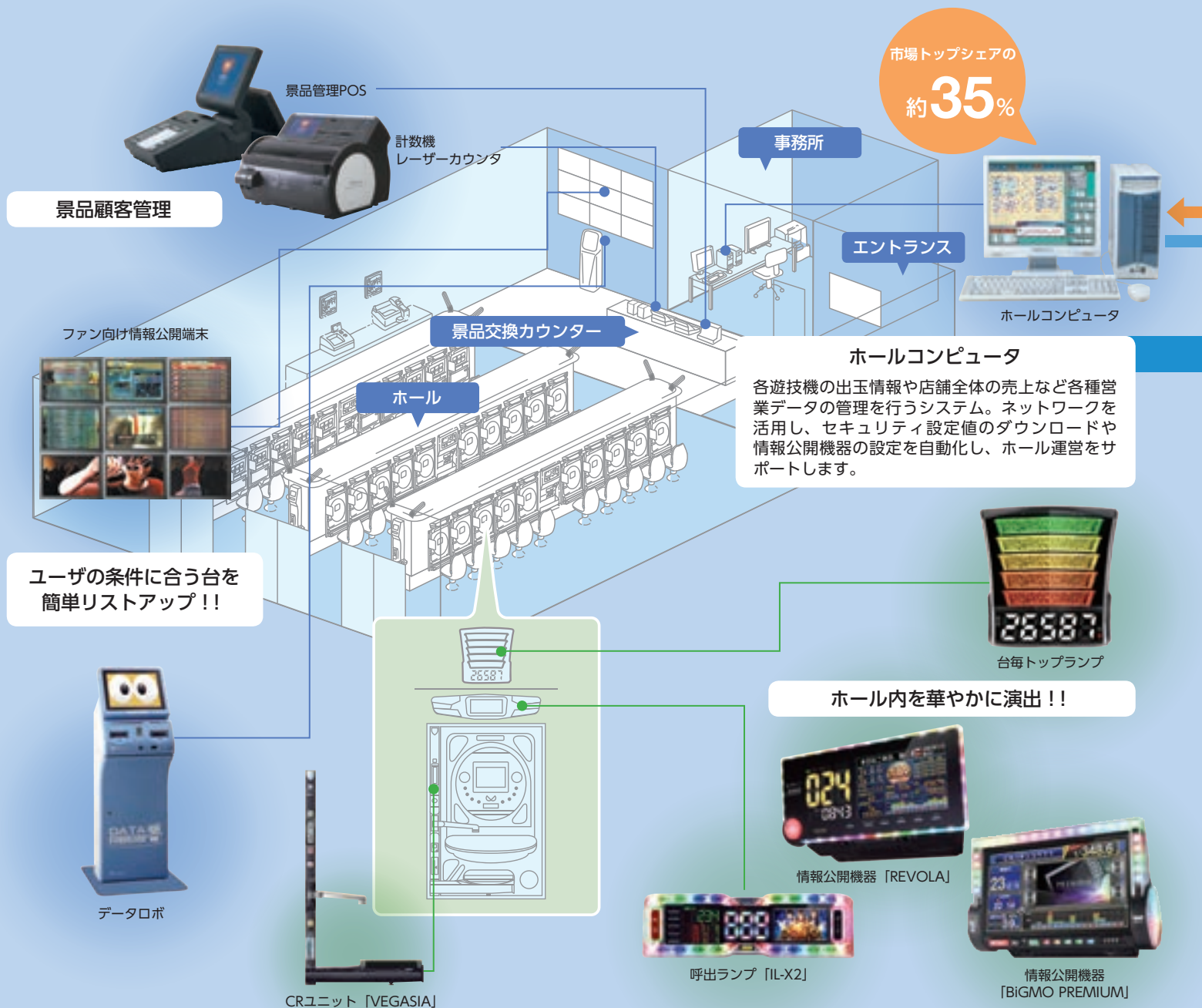
セグメント利益



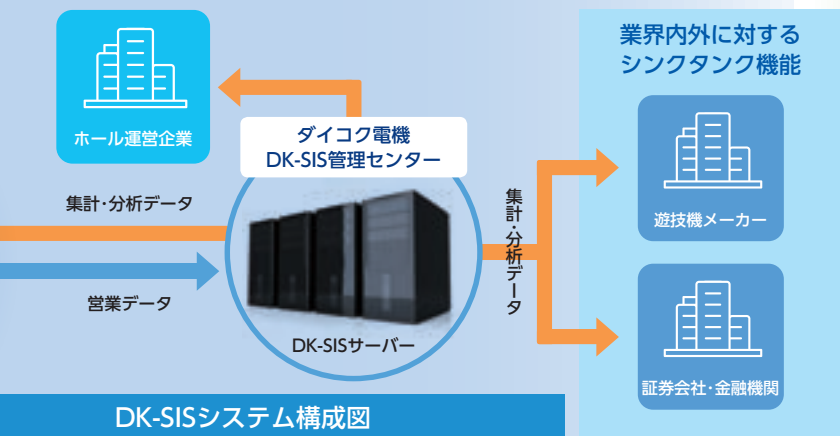
当期の営業概況

新規出店が減少したことでホールコンピュータの需要が伸び悩み、既存店の周辺機器入替への投資意欲が減少するなか、CRユニット「VEGASIA」、情報公開機器「BiGMO PREMIUM」及び「IL-X2」の販売台数は前年同期を下回る結果となりましたが、新型情報公開機器「REVOLA」の販売やMIRAIGATEサービスに関しては、順調に推移し、顧客との関係強化と収益率のアップに繋がりました。

費用面におきましては、研究開発費が一時的に増加した前年同期に対し、大幅に減少しました。



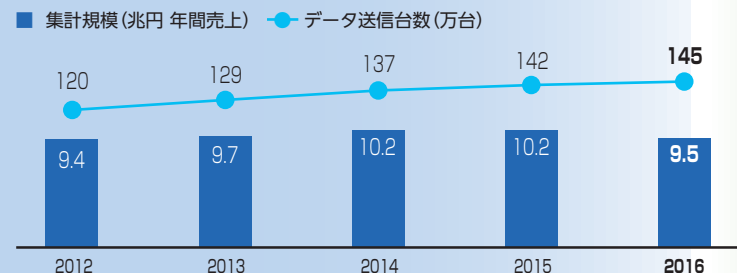
を提供し続ける市場創造型の企業です。



会員制情報提供サービス「DK-SIS」

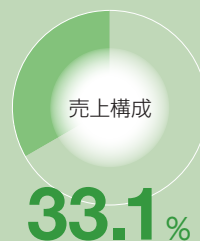
「DK-SIS」は、1990年(平成2年)に店舗経営を支援する会員制システムとして誕生しました。パチンコホールの基幹システムであるホールコンピュータとダイコク電機とを専用回線で結び、日々の営業データを収集し、分析、加工後、パチンコホールに各種データを提供する顧客支援システムです。遊技機データ量は約145万台分、金額換算すると9.5兆円分のデータをベースに、遊技機動向や営業データなど付加価値の高い情報を提供。ホール経営支援から業界の発展へも貢献しています。

この大規模データを活用し、証券会社や金融機関など業界外にもパチンコ業界の指標を配信。リアルタイムで客観的な数値情報を公開することで、業界に対する信頼を構築しています。



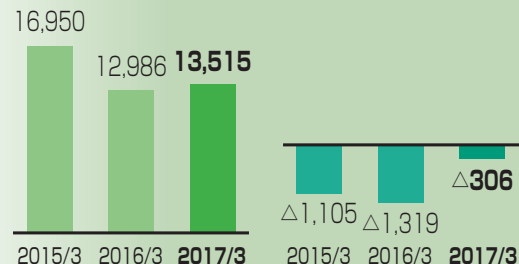
制御システム事業

パチンコ・パチスロ遊技機メーカーに対し、遊技機の表示や制御ユニットのハードウェア及びソフトウェアの開発からセールスプロモーションまで手がけています。また、子会社のDAXELではパチスロ遊技機を製造・販売しています。



売上高

セグメント利益



当期の営業概況

伊勢志摩サミット開催に伴う遊技機の入替自粛規制や型式試験結果の現況、さらには「検定機と性能が異なる可能性のあるぱちんこ遊技機」の回収・撤去に伴う市場変化により、遊技機メーカーの販売スケジュールが大きく見直されたことで、表示ユニットの販売台数及び周辺部品の販売数量は前年同期に比べ減少しました。

パチスロ遊技機においては、約12,300台(2機種)を市場投入し、前年同期の約5,100台(1機種)に対して増加しました。

ダイコク電機
DK

遊技機メーカー

- 遊技機市場の変化に対応した企画開発
- 表示用ユニット、制御用ユニットの提供
- 映像制作・プログラミング
- 品質管理(デバッグ・検査)

パチスロ遊技機の企画・開発・製造・販売



パチスロ ウィッチクラフトワークス



探偵歌劇 ミルキィホームズTD
消えた7と奇跡の歌

連結子会社 DAXEL株式会社

NOW DAXEL株式会社 パチスロ遊技機

DAXEL株式会社より「パチスロ そらのおとしものフォルテ」、
「パチスロ 結城友奈は勇者である」の2機種を2017年7月より
発売予定です。

そらのおとしものフォルテ



「そらのおとしもの」は原作コミック400万部突破、TVアニメ2期放送、劇場版2作公開となるKADOKAWA大ヒットアニメとなります。

通常時は目押しが苦手な人でも安心のキャラクターを主軸にし、見た目にも分かりやすくユーザーを選ばない間口の広いゲーム性となる「パチスロ そらのおとしものフォルテ」にご期待ください。



© 2016 株式会社パチスロ/パチスロ/パチスロ
© DAXEL
パチスロ/パチスロ/パチスロ

結城友奈は勇者である



© 2016 株式会社パチスロ/パチスロ/パチスロ
© DAXEL
パチスロ/パチスロ/パチスロ

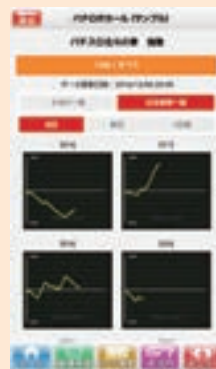
「結城友奈は勇者である」は2017年10月にTVアニメ2期の放送が決定しており、今まさに話題沸騰中の作品となります。
アニスロシリーズ初の差枚数上乘せ型ARTを取り入れた新たなゲーム性となります。
124Gbitの大容量ROMを搭載し映像もパワーアップした「パチスロ 結城友奈は勇者である」にご期待ください。

NOW パチロボをパワーアップ

ファン向け無料アプリ「パチロボ」に新機種の大当り詳細データ一覧と出玉推移グラフが、全国導入から1カ月間閲覧できる「新機種大当りデータ一覧&グラフ」と、遊技台情報プッシュ通知サービス「ドーナッター」の2つの新機能を投入しました。

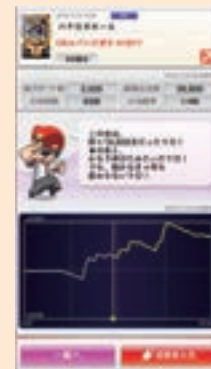
■ 新機種大当りデータ一覧&グラフ

有料会員向けサービス「データロボ サイトセブン」で最も利用率の高い情報「新機種大当りデータ一覧&グラフ」が、ホールに行かなくてもチェックできるようにしました。
また、気になる台を見つけた場合は、「みんなの遊技広場」に投稿することもできるようになりました。



■ ドーナッター

ファンが一番気になる「自分が遊技していた台の最終結果」をホールの閉店後に自分のスマートフォンで知ることができます。
受取る結果は出玉推移グラフで表示され、自分が打ち終わった後の結果部分が色分けされ、わかりやすいものになっています。



NOW 本格レースアプリ「首都高バトル XTREME」

元気株式会社は、2017年1月に本格レースアプリ「首都高バトル XTREME」をリリースしました。
「首都高バトル」シリーズの最新作となる本作は、タップしてアクセル、スワイプでハンドリングという操作を駆使してチェイスする本格レースゲームです。走りに影響を与えるパーツチューニングはもちろん、見た目に影響を与えるエアロパーツ・ステッカー・バイナルなど豊富に用意。自分好みの車両で、走りの極限に挑戦できます。

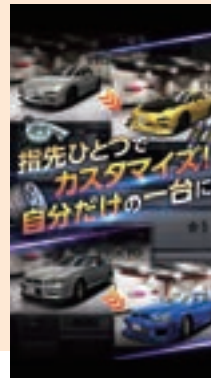
■ 国内自動車メーカーの車両が実名で登場

TOYOTA「86」、Honda「NSX-R」、NISSAN「GT-R」など国内自動車メーカー8社監修のもと実名車両が多数登場！
今後、続々追加予定です！



■ 多種多彩なカスタマイズ

車両の戦闘力に影響を与える6種類のパーツの合成・装備でバトルが有利に！
イベントやクエストで手に入るステッカーやバイナル、エアロパーツで自分だけのこだわりあるエクステリアカスタマイズが可能。
是非スマートフォンで本格レースゲーム「首都高バトル XTREME」をお楽しみください。



会社及び株式の状況 (2017年3月31日現在)

■会社概要

商 号 ダイコク電機株式会社
DAIKOKU DENKI CO., LTD.
創 業 1965年 9月
設 立 1973年 7月
資 本 金 6億7千4百万円
(発行済株式総数14,783,900株)
本 社 名古屋市中村区那古野一丁目43番5号
従業員数 (単独)476名 (連結)668名
事業内容 パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売
パチンコ遊技機用ユニット・パチスロ遊技機の開発・製造・販売
決 算 期 3月31日
事 業 所 3事業所、4支店、13営業所
連結子会社 元気株式会社、DAXEL株式会社、
ダイコク産業株式会社、アロフト株式会社

■役員 (2017年6月28日現在)

代 表 取 締 役 会 長	栢 森 雅 勝
代 表 取 締 役 社 長	根 本 弘
代 表 取 締 役 専 務	栢 森 健
常 務 取 締 役	丹 羽 時 重
常 務 取 締 役	大 上 誠 一 郎
取 締 役	栢 森 啓
取 締 役	藤 巻 靖 裕
取 締 役	松 原 真 那 武
取 締 役	大 成 俊 文
取 締 役	足 立 芳 寛
取 締 役	武 田 邦 彦
常 勤 監 査 役	吉 川 幸 治
監 査 役	村 橋 泰 志
監 査 役	田 島 和 憲
監 査 役	知 念 良 博

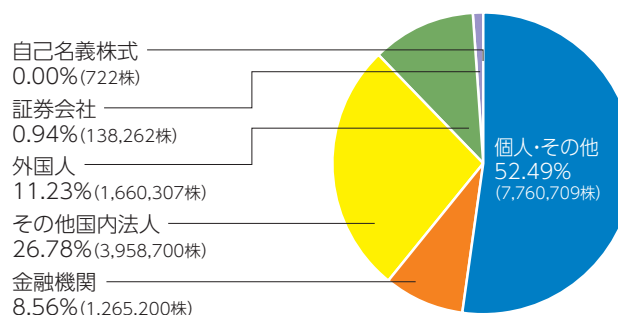
(注) 1.取締役 足立芳寛氏、武田邦彦氏は社外取締役であります。

2.監査役 村橋泰志氏、田島和憲氏、知念良博氏は社外監査役であります。

■株式の状況

発行可能株式総数 66,747,000 株
発行済株式総数 14,783,900 株
株主数 8,954 名

■所有者別株式分布状況



■大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
栢森 健	1,772,200	11.98
栢森 雅勝	1,031,650	6.97
栢森 秀行	961,000	6.50
栢森 美智子	926,000	6.26
栢森 寿恵	887,000	6.00
栢森 和代	773,000	5.22
公益財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森 新治	443,450	2.99
ビーエヌワイエムエスエーエヌブイ ノントリーティー アカウント	318,100	2.15
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	276,300	1.86

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日

定時株主総会 6月下旬

基準日 定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

その他必要があるときは、
あらかじめ公告いたします。

一単元の株式数 100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒460-8685
名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063

電話照会先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は三井住友信託銀行株式会社の
本店及び全国各支店でっております。

公 告 方 法 電子公告によります。ただし、やむを得ない
事由によって電子公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載いたします。

公告のホームページアドレス

<http://www.daikoku.co.jp>

株主優待制度のご案内

当社は、株主の皆さまの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、中長期的に保有していただける株主さまの増加をはかることを目的とし、株主優待制度を導入しております。

優待内容

毎年9月末現在の株主名簿に記載又は記録された、当社株式1単位(100株)以上を保有する株主さまを対象に保有株式数と保有期間に応じたポイントを贈呈いたします。優待商品との交換のお申込みには、当社株主さま限定の特設ウェブサイトにてお申込み並びにご登録いただく必要があります。

ポイントは食品、飲料、電化製品、旅行・体験、当社オリジナルグッズなどに交換できます。また、社会貢献活動への寄付も可能です。

対象となる株主さまには、11月上旬に保有ポイントやポイント交換方法などを記載したご案内をお送りする予定です。

毎年**9月末現在**
100株以上保有

保有株式数と保有期間に応じて
商品と交換できる

ポイントを贈呈

保有株式数	初年度	1年以上保有 ^{※2}
100~299株	3,000ポイント	3,300ポイント
300~499株	6,000ポイント	6,600ポイント
500~699株	12,000ポイント	13,200ポイント
700~999株	15,000ポイント	16,500ポイント
1,000株以上	20,000ポイント	22,000ポイント

※1
約**600種類**の
優待商品から交換可能!

ポイントが繰越して
貯められる!

※2
1年以上保有で
贈呈ポイント+10%

保有ポイント内で
いくつでも交換OK!

※1：株主限定ウェブサイトでは選べる種類の数。電話受付の場合は約100種類。※2：9月末の株主名簿に100株以上、同一株主番号で2回以上記載されること。

優待商品例(2016年実施分)



乳蔵 十勝生どら15個

古都金沢プレミアムアイス
7個セット



宮崎牛
焼肉・すき焼きセット410g



かに詰合せ



神戸牛すき焼き
肩スライス900g



松阪牛
サーロインステーキ3枚



＜iRobot＞
床拭きロボット「ブラーバ」